

琵琶湖岸ヨシ群落について聞き取り調査

龍谷大学理工学部

森本 健吾

龍谷大学理工学部・准教授/里山学研究センター・研究員

横田 岳人

1. はじめに

ヨシ群落は琵琶湖の自然景観において豊かな郷土の原風景であり、魚類・鳥類などをはじめ様々な生物の生息場所、湖岸の侵食防止、水質保全等多様な機能を有しており、豊かな生物相を育み、琵琶湖の環境保全の面でも重要な要素の一つとなっている（内藤2012）。また、ヨシはかつて簾や戸・棚などの建具・家具、茅葺き屋根・垣根などの建築資材、燃料や薬剤などに加え、琵琶湖の伝統的漁法であるえり漁や梁漁の漁具にも使用されるなど、生活の様々な要素として利用され人々の暮らしや文化と深く関わり、それらを支えてきた（淡海環境保全財団2002）。しかし、湖岸の埋め立てや琵琶湖総合開発による公共事業、湖岸公園、湖岸道路の建設などにより、湖岸の状況が変化した。また、内湖でのヨシ等の抽水植物の生育面積は琵琶湖全体の生育面積の約60%におよぶため、内湖はヨシ群落にとって貴重な存在であるが、埋め立てや干拓により1940年代には延べ面積2902ha、37内湖にヨシ群落が存在していたものが、2005年現在残っているのは425ha、23内湖になった（西野・浜端2005）。

ヨシ群落の保全について、滋賀県が1994年に「琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例」を制定し様々な取り組みが進められてきたが、かつてのヨシの生育状況を知る人が年々減少し、持続可能なヨシ群落の保全を考える糸口が少しずつ失われていると思われる。

この報告では、かつてのヨシの生育状況を知る人に聞き取りを行い、ヨシの生育状況の記憶の一端を記録することを通じて、持続可能なヨシ群落の保全を考える一つの情報を提供できれば良いと考え、実施した。

2. 調査地および調査方法

ヨシ群落保全計画で目標としている昭和30年代頃までの生活を実体験として記憶している方々を調査の対象とし、期間は2016年11月～2017年1月の間に行った。聞き取りは、滋賀県草津市志那地区の地域住民1人と滋賀県近江八幡市の地域住民2人、西の湖周辺でヨシを使用した生業をおこなってこられた1人の計4人から行った。主な聞き取りの内容は、ヨシ群落の昔の様子、現在までの保全の取り組み、問題点やこれからの課題についてである。

西の湖周辺では、近江八幡市八幡堀付近で1948年（昭和23年）生まれ69歳の女性1名から、近江八幡市安土町下豊浦在住では1930年（昭和7年）生まれ85歳男性と1947年（昭和27年）生まれ70歳男性の2名から、聞き取りを行った。

草津市志那周辺では、1942年（昭和17年）生まれ75歳で草津市志那中町在住の男性から聞き

取りを行った。

3. 聞き取り結果

(1) 近江八幡市西の湖周辺 1948年（昭和23年）生まれ69歳の女性のお話し

古事記や日本書紀では日本のことは豊葦原瑞穂の国と記されていて、古くからヨシは日本の風景の一つとして人々に親しまれ、美しいものとされてきた歴史がある。西の湖のヨシは、古くから江洲葭や円山葭の名で全国に集荷され、簾や障子などに加工、屋根材に用いられるなどして利用されてきた。夏になると障子がヨシを使用した葭簾（よしず）に取り換えられ、人々が涼を感じ、夏の風情の1つとして親しまれていた。しかし、家電製品の普及や家づくりの変化の影響などで、障子を取り換える文化自体がなくなってしまった。また安い中国製のヨシが輸入されたことにより、高価な国産の葭簾は中国産のものに追いやられ、衰退していく原因の一つとなった。ヨシの伝統的な利用は、生活様式の変化により減少していった。ヨシ葺き屋根は多くの建物に使用されてきた。ヨシ葺きの屋根は家を風や雨から守っていくうちに、1本1本が少しずつ短くなり、屋根の厚みが減っていき、修理が必要となる。その修理には多くのヨシが必要となるため、毎年刈り取りし、利用していた。ヨシ葺きの屋根も現在では建築基準法で（新築が）禁止されているため、新しく葺き替えを行うことができなくなってしまった。そのため、かつては西の湖周辺の地場産業の一つとして重要な存在だったヨシ産業も衰退していくしかなくなってしまった。ヨシを刈り取り、焼いて、再生させる。この一連の過程の中で、苦勞し、面倒な事を人々が行っていく過程こそが文化であり、守るべき伝統なのではないのか。

(2) 近江八幡市西の湖周辺 1930年（昭和7年）生まれ85歳の男性のお話し

ヨシは水を浄化する作用があり、水質でヨシの品質や状態も変わってしまう。昔は水の綺麗な状態が続いていたため、西の湖周辺では、良質なヨシがたくさん採れていた。良質なヨシは高値で売ることができていた。しかし戦後、食料不足による米の増産や道路建設などのため、ヨシが生えている場所が埋め立てられ、ヨシが消えてしまった。さらに、農薬、家庭排水、工場排水などで水質が悪くなり、西の湖が汚れていった。ヨシが持つ、浄化作用によりそれらの汚水を吸い取ってしまい、ヨシの茎が汚れてしまい、黒く変色してしまうようになった。ひどい時にはほとんど製品にならず、良質なヨシを生産できなくなった時もあった。現在では、伝統的なヨシ産業や文化を子ども達に伝える活動を行っている。ヨシは昔から身近な存在で必要なものであると伝えていくことも、ヨシを保全していくには重要な事であると考えている。

(3) 近江八幡市西の湖周辺 1947年（昭和22年）生まれ70歳の男性のお話し

今から60年ほど前には、西の湖は湖の底にある貝や魚などが見ることができるくらい水がきれいだった。西の湖がある場所付近は、大中の湖と呼ばれる大きな内湖が存在していた。戦後の食糧難の影響などで大中の湖の干拓が行われ、田んぼや畑を作るために、干拓が行われた。この地域では漁業が主な産業の一つであったが、干拓により農業へと変化した。西の湖では昭和60年ごろからブラックバスやブルーギルが増えてきた。琵琶湖で外来魚の問題が騒がれていた時には、西の湖でも生息が確認されるようになった。ウシガエルも昔はいなかったが、湖の水が汚れてきたため、増えたと言われていた。「近江八幡の水郷」は、2006年に国の重要文化的景観として選定された。そこには西の湖のヨシ群落の景観も含まれており、景観の現状を維

持していく取り組みも行われている。また、西の湖はラムサール条約湿地にも登録されている。県の条例により、現在はヨシ刈りが公的な機関によって管理されているため、個人が気軽にヨシを利用することができなくなっている。

(4) 草津市志那地区 1942年（昭和17年）生まれ75歳男性のお話し

志那中内湖がある志那地区では、昭和30年代には、子供が琵琶湖で泳いで遊べるぐらい水がきれいであった。内湖の水、琵琶湖の水、水路の水は、飲めるほどきれいであった。水路や内湖には、魚がたくさんいて、子供たちは、よく釣りをして遊ぶ事が多かった。昭和40年代までは志那地区でも琵琶湖沿岸で、漁業が行われていた。その頃はヨシ群落もたくさんあり、魚のすみかや産卵場所としての役割をはたしていた。ヨシ帯をそのまま漁に利用した漁法があった。湖岸部や内湖にあるヨシ群落を囲い、ヨシの中にいる魚を一気に獲るという漁法で、ヨシが漁業を行う人々にも利用され、漁業を行う人々にも欠かせない存在であった。志那中内湖周辺ではヨシは貴重な資源であり、ヨシ葺き屋根、蓆簾などに利用していた。湖岸道路の建設により、ヨシが刈り取られた、その影響により魚の数が減少し、漁業も衰退を余儀なくされた。また水路に利用されていた土地が、道路化、舗装化された昭和60年代から急激に、内湖や水路の水質が悪くなっていった。

4. 聞き取り調査を終えて

今回の聞き取りの結果、既に西村ほか（2012）や宮内（2009）などで報告されていることではあるが、ヨシ群落の衰退の様子を知ることができた。以下に簡単に列挙する。

ヨシ群落減少の原因として、人々の生活様式の変化や、ヨシを利用した産業の衰退、埋め立てや干拓などがあげられた。昭和30年代までは、ヨシ群落は人々の生活に必要な存在であり、保全を特に意識することなく、ヨシ群落が保全されるサイクルができていた。品質の良いヨシを生産するためには自然の生育に任せるだけではなく、積極的に人間がヨシを管理する必要がある。しかしながら、ヨシの利用の仕方は大きく変化した。ヨシを商品として扱い産業のために必要なものとしていた時代から、自然景観としてヨシ群落を保全し、保護活動のためにどうすれば良いのかを考えていく時代へと変化したことが、聞き取りを通じて確認することができた。

ヨシ群落の保全再生を考える場合、世代によって持っているヨシ群落に対するイメージが異なるため、保全に向けての意識の形成が十分にできていないかもしれない。今回のような聞き取りを通じて、ヨシ群落についてのイメージが共有できれば、保全への意識形成に役立つのではないと思う。今回の報告が、そのような役目を果たせれば幸いである。

引用文献

宮内泰介編（2009）「半栽培の環境社会学」昭和堂

西村大志、西川博章、浜端悦治、藤井伸二、深町加津枝、森本幸裕（2012）西の湖におけるヨシ群落の管理頻度と植生変化の関係 ランドスケープ研究 75（5）、435-440

西野麻知子、浜端悦治 編（2005）「内湖からのメッセージ 琵琶湖周辺の湿地再生と生物多様性保全」サンライズ出版社

内藤正明監修（2012）琵琶湖ハンドブック改訂版 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課

<http://www.pref.shiga.lg.jp/biwako/koai/handbook/kaiteiban.html> 閲覧日2017.1.19

淡海環境保全財団（2002） 琵琶湖のヨシ再生に向けた植栽条件に係る調査研究報告書
<https://nippon.zaidan.info/seikabutsu/2001/00339/mokuji.htm> 閲覧日2017.1.19